

冬期テキスト

実練編

国語

中学 **3** 年



◆もくじ◆

国語3年

講座名	ページ	学習日	確認
第1講座 論説文(1)―指示語・接続語	2	/	
第2講座 論説文(2)―構成・要旨	6	/	
第3講座 小説(1)―心情・人物像	12	/	
第4講座 小説(2)―主題	18	/	
第5講座 随筆―表現・主題	24	/	
第6講座 詩歌―詩・短歌・俳句の鑑賞	30	/	
第7講座 古典(1)―古文の読解	34	/	
第8講座 古典(2)―漢文・漢詩の読解	38	/	
補講 コミュニケーション・表現	42	/	
入試対策問題	51	/	

講座名	ページ	学習日	確認
言語① 部首・画数・筆順・書写	43	/	
言語② 同音異字・同訓異字・同音異義語	44	/	
言語③ 熟語の構成・三字熟語・四字熟語	45	/	
言語④ 類義語・対義語	46	/	
言語⑤ 慣用句・ことわざ・故事成語	47	/	
言語⑥ 敬語	48	/	
言語⑦ 紛らわしい語の識別(品詞)	49	/	
言語⑧ 紛らわしい語の識別(意味・用法)	50	/	

第8講座

古典(2) — 漢文・漢詩の読解

学習日 月 日

基本問題

1 次のA・Bの漢文と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

A【漢文】

子曰、^①「父母在、不遠遊。遊必有方。」

【書き下し文】

子曰はく、「 」と。

B【漢文】

子曰、「父母之年、^②不可不知也。

一則以喜、一則以懼。」

【書き下し文】

子曰はく、「父母の年は、知らざるべからざるなり。一には則ち以て喜び、一には則ち以て懼る。」と。
〔「論語」より〕

問1 古典常識 『論語』は、誰の言行をまとめているものですか。人名を漢

字で書きなさい。

問2 書き下し文 — 線①「父母在、不遠遊。遊必有方。」を、書き下し文

の に当てはまるように書き下しなさい。

問3 現代語訳 Aの漢文を現代語訳したものととして最も適切なものを次から

一つ選び、記号で答えなさい。

A 父母の存命中は親元を離れてはならない。離れる時は、行き先を必ず示すべきである。

イ 父母が家にいる時は、遠くへ出かけて行くべきではない。遠出をするとき必ず問題が起こる。

ウ 父母が家にいるのだから、親元を遠く離れてはならない。親元でも必ず遊ぶ方法はある。

エ 父母の存命中は、遠くへ遊びに行くべきではない。遊んでばかりいるから説教されるのだ。

問4 送り仮名・返り点 — 線②「不可不知也」に正しく送り仮名と返り点

をつけたものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 不可^カ不^フ知^チ也^ヤ I 不^フ可^カ不^フ知^チ也^ヤ

ウ 不^フ可^カ不^フ知^チ也^ヤ E 不^フ可^カ不^フ知^チ也^ヤ

問5 内容理解 Bの漢文についてまとめた次の文の a・bに当てはま

る言葉を後から一つずつ選び、書きなさい。

父母の年齢を覚えておくべき理由として、一つには親の aを喜ぶこと、もう一つには親の bを気遣わねばならないことが挙げられている。

慣習 家族 老体 労働 長寿

a

b

【2】 次の漢詩と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

【漢詩】

送杜十四之江南
孟浩然

杜十四の江南に之くを送る

【書き下し文】

荆吳相接水為郷

荆吳相接して水郷と為る

君去春江正淼茫

君去りて春江正に淼茫

日暮孤舟何処泊

日暮孤舟何れの処にか泊する

天涯一望断人腸

天涯一望人の腸を断つ
〔唐詩選〕より

〔注〕 荆吳＝隣接した荆地方と吳地方。 淼茫＝水が果てしなく広がっている様子。

日暮＝日が暮れると。 天涯＝天の果て。 空と水が接する水平線のかたち。

問1 漢詩の形式 この漢詩の形式として適切なものを次から一つ選び、記号

で答えなさい。

ア 五言絶句 イ 五言律詩

ウ 七言絶句 エ 七言律詩

問2 主語——線①「君」とは、誰を指しますか。三字で書きなさい。

問3 漢詩の知識——線②「茫」と韻を踏んでいる文字を漢詩の中から全て

抜き出しなさい。

問4 送り仮名・返り点——線③「断人腸」に送り仮名と返り点をつけなさい。

断人腸

問5 心情理解 この漢詩に込められた作者の思いを、十字程度の現代語で簡潔に書きなさい。

要点的まとめ

入試で出題されやすい次のポイントに注意する。

1 漢文

① 書き下し文—漢文を漢字仮名交じりの文（＝書き下し文）に書き改める
・助詞・助動詞に当たる漢字を平仮名に直す。

・置き字（而、於など）は読まないで、書き下し文には書かない。

② 訓点—白文（漢字だけの文）に、送り仮名や返り点をつける

・送り仮名：助詞、助動詞、用言の活用語尾を漢字の右下にカタカナで示す。

・返り点：書き下し文とよく見比べて、次の分類の中で読み方に合う返り点はどれかを判断する。

【返り点の種類】

・レ点……下の字からすぐ上の字へ返る。

③ ② ①

・一・二（・三……）点……二字以上の字へ返る。

③ ① ②

・上（・中）・下点……一・二点のついた部分を挟んで下から上に返る。

⑤ ③ ① ② ④

2 漢詩

① 漢詩の形式

一句↓五字（＝五言詩） 一句↓七字（＝七言詩）

全体が四句（＝絶句） 全体が八句（＝律詩）

② 押韻—句末の韻を踏んでいる漢字を見極められるようにしておく。

・五言詩↓偶数句末で押韻する。

・七言詩↓第一句末・偶数句末で押韻する。

演習問題

【1】 次の漢文と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

【漢文】

① 郢人有遺燕相国書者。② 夜書、火不③ 明。因謂持燭者曰、「④ 挙燭。」云而過、書⑤ 挙燭。挙燭非⑥ 書意也。燕相受書而説之曰、「⑦ 挙燭者、尚明也、尚明也者、⑧ 挙賢而任之。」燕相⑨ 白王王大説、国以治。治則治矣、非⑩ 書意也。今世学者、多⑪ 似此類。

【書き下し文】

郢人に燕の相国に書を遺る者有り。因りて燭を持する者に謂ひて曰はく、「燭を挙げよ。」と云ひて過ちて、燭を挙げよと書す。燭を挙げよとは書の意に非ざるなり。燕の相書を受けて之を説きて曰はく、「燭を挙げよとは、明を尚ぶなり、明を尚ぶとは、賢を挙げて之を任するなり。」と。燕の相王に白す。王大いに説び、国以て治まる。治まるは則ち治まるも、書の意には非ざるなり。今の世の学者、多く此の類に似たり。

(注) 郢 中国の春秋戦国時代の楚の国都。 燕 春秋戦国時代の国。

相国 宰相のこと。 書 手紙。 書の意 手紙の本来の意味。

明 賢明。 賢 賢人。 白す 上申する。

問1 返り点 —— 線① 「郢人有遺燕相国書者。」に、正しく返り点をつけたものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 郢人有遺_二燕相国書_一者_三。
イ 郢人有遺_二燕相国書_一者_上。
ウ 郢人_一有遺_二燕相国書_一者_上。
エ 郢人有_二遺_下燕相国書_上者_一。

☐

問2 書き下し文 —— 線② 「夜書、火不③ 明。」を書き下しなさい。

問3 送り仮名・返り点 —— 線③ 「因謂持燭者曰」、④ 「燕相受書而説之曰」に、訓点をつけなさい。

③ 因 謂 持 燭 者 曰

④ 燕 相 受 書 而 説 之 曰

問4 会話文 —— 線A、Bは、それぞれ誰の言葉ですか。次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 燕の相国に書を遺る者 イ 燭を持する者
ウ 燕の相 エ 燕の王 オ 今の世の学者
A ☐ B ☐

問5 内容理解 —— 線⑤ 「之」は、何を指していますか。次の文の ☐ a・b に当てはまる言葉を、書き下し文の中から a は二字で、b は五字で抜き出しなさい。

☐ a から届いた手紙の中の ☐ b という言葉の意味。

a	b

問6 内容理解 —— 線⑥ 「多く此の類に似たり」とありますが、これは当時の学者がどのようなことを表していますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の考えが明確でなく、常に他人の説を借りて説明していたこと。
イ 自分の経験に基づいて、あらゆることを論理的に説明していたこと。
ウ 自分の独創的な思いつきで、わかりやすくとえて説明していたこと。
エ 自分の理屈で無理にこじつけて、もっともらしく説明していたこと。

☐

国語 中学 3 年

解答と解説

1 論説文(1)―指示語・接続語

◆基本問題◆

2～3 ページ

問1 A オ B イ

問2 ⑥

問3 (1) 追い詰められる(時)

(2) a 例 ふだんとは別のお面をつけて日常の仮面を剥ぎ取る

b 例 それまでの自分から解放される

問4 例 観客に見られ、期待と感動を感じることで、さらに変身後押しさ
れて演じることができる。

問5 ウ

解説

問1 空欄の前後の関係から、当てはまる接続語を考える。Aは、直前の「どうしても脱ぎ捨てられなかったもう一つの仮面」を、直後で「それまでの自分」と言い換えているので、オ「つまり」が適切。Bの前では「見知らぬ土地に行くことは仮面をはずす大きなチャンスになる」と述べているが、後の「帰ってくると元の木阿弥(きあみ)ということが続きました」という内容は、前で述べたことに反するのでイ「しかし」が適切。

問2 挿入する文にある「そういう時」に着目して、当てはまる箇所を考える。その直前には、「鬼」や「ひょつとこ」が現れるような時について述べられていると考えられる。⑥の前の段落では、宗教的な儀式や祭(まつり)演劇などで「お面」をつけることが述べられており、「鬼」や「ひょつとこ」が現れるという内容につながる。

問3 (1) 指示語の指す内容は、まず直前の部分に着目して捉える。直前の段落では、「日常の仮面」が人を追い詰めることがあると述べており、「そんな時」に別のお面をつけると命じる智慧(ちえ)があったということである。条件に合

う部分を探し、「追い詰められる」を抜き出す。(2) 直後で「端的にいえば」と言い換えている。「人間はそれを利用して」が、解答欄の「ことによって」と同様の意味であることに着目し、その前後からa bの内容をまとめる。

問4 「役者」はどのように励まされるかを問われているので、「役者」の視点で答える。「能役者が……演じることができるのは観客という他者の目があるから」(43行)、「(観客の)期待と感動が役者に伝わって、その変身をさらに後押しする」(46行)の部分をもとにまとめる。

① 役者が観客に見られ、期待や感動が伝わる。

② ①によって役者は、さらに役になりきって演じることができる。

この二つの内容が書けていればよい。

問5 選択肢の内容と、本文で同じようなことを述べている箇所を照らし合わせて考える。

ア 前半は第三段落の内容に合うが、後半「必要に応じて、仮面はつけたりはずしたりすることができ」が本文と異なる。第一～三段落では、日常の仮面を脱ぎ捨てることの難しさを述べている。

イ 最終段落で、「自己決定」に関して、「すべてを自分の力で引き受けなければならぬ」と述べており、イの後半の「すべて自分の力で引き受けなければならぬ」は不適切。

ウ 第七・八段落で、筆者は自分がカウンセラーの助けを求めたことを振り返り、「人の助けを求めたことが大ききかけをくれた」(35行)、「セルフイメージを書き換えられる」と、やはり人の視線や力が必要になる」(41行)と述べている。この内容に合うので適切。

エ 第五段落で、民族衣装を着て大学に通っても、数カ月後に民族衣装を脱ぐと「普段の自分」に戻ると述べ、それについて「こりゃいかんと思って」とあるので、「普段の自分に戻るのはいやむを得ないことである」は不適切。

活を守った」が、それぞれ古文の内容とは違っている。

現代語訳

「今となつては昔のことだが、ある大名がたいへんよい馬を買い求め、『いざ勝負を決する大事の場合、頼りになるのはこの馬だ』と言って大事になさり、その馬の餌として、米や豆をたっぷりと与えなされたが、馬飼の者が、それを全部奪い取って自分の利益にし、馬にはただ草の粥を不十分に与えて飼育していた。案の定、天下は乱れて戦が始まった。『馬を大事に飼つておいたのはこの時のためだ』と思つて、例の大名があつた馬にお乗りになると、全然元気がなく、はね躍る力もない。大名は非常に怒り、『こんな役立たずの馬だとは思ひもよらなかつた。大事に飼つていたとは（腹立たしい）』と言ひ、鞭で散々打つたところ、この馬は、人間のようにものを言つて、『どうか殿様もよくお聞きください。馬飼がひどく飼料を惜しみ、満腹になるほど食わせてもらつたことがないのです。その状態で力も弱く、心も奮い立たず、走れないのです』と訴えました」と、昔の人が話していた。あつた大名（主人公が奉公する大名）は、家臣から厳しく取り立て、農民からはむしり取り、無情に振る舞いなさる。家臣たちは、「浪人すると、再び召し抱えられ、無情に振る舞はれない。飢えて死ぬのでなければ、それ以上はしかたがないことだ」と思つて、我慢していたのだが、本当に大事な時になつて、その大名に忠誠心がわかない。あつた名馬のように役に立たないものになり、一気に押し切るべき戦場で陣地を放棄して逃げ、味方を不利な状況に追い込むであらうことは、目に見えているが、（あつた大名は）「後のことは後のこと、今は今だ。この場での利益があるほうがよい」とお思いになるとは、あきれたものだ。

8

古典(2)―漢文・漢詩の読解

◆基本問題◆

38～39ページ

① 問1 孔子

問2 父母在さば、遠く遊ばず。遊ぶに必ず方有り。

問3 ア 問4 イ

問5 a 長寿 b 老体

解説

問1 「論語」は、孔子の言行や弟子たちとの対話が記録されている書物であり、孔子の思想を最もよく伝えるものとしても有名である。

問2 線①を読む順に番号をつけると、次の通り。

父¹母²在³、不⁴遠⁵遊⁶。必⁷有⁸方⁹。

「不」は打ち消し（否定）の助動詞に当たる字なので、平仮名に直し「ず」と書く。その他は、カタカナの送り仮名を平仮名に直せばよい。

問3 「遊」は、単に遊びに行くという意味でなく、遊学などを含め、親元を離れて暮らす状態を表している。また、「方」は、自分が向かう行き先のこととて、「方有り」で、行き先を明確にしておくという意味である。

問4 線②にあたる書き下し文は「知らざるべからざるなり」であるから、「不」「可」「也」は平仮名で書き下す助動詞・助詞に当たる字だとわかる。

アは、打ち消しの助動詞「ざる」を送り仮名としてつけているので誤り。ウは、二字以上上の字に返る「一・二点」を一字ずつ上に返る記号として使っているのが誤り。「不」はすぐ下の字を打ち消すから、イのようにレ点を使つてすぐ下から返る読み方が適切である。

問5 「一には」は、「一つには」、「一方で」という意味で、ここでは理由を導いている。「以」は、「～によって」という意味で、理由を表す。「父母の年齢を知ることによって喜び」という意味から、ここでは「長寿」と解釈でき